

事業活動地球温暖化対策結果報告書

(あて先) 川崎市長

郵便番号 101-8425
 住 所 東京都千代田区神田神保町3丁目8番1号
 氏 名 学校法人専修大学
 理事長 日高 義博

(法人にあっては、名称及び代表者の氏名)

川崎市地球温暖化対策の推進に関する条例第10条第1項の規定により、次のとおり提出します。

事業者の氏名 又は名称	学校法人専修大学		
主たる事務所 又は事業所の所在地	神奈川県川崎市多摩区東三田2丁目1番1号		
該当する事業者 の要件	<input checked="" type="checkbox"/> 規則第4条第1号該当事業者		
	<input type="checkbox"/> 規則第4条第2号該当事業者		
	<input type="checkbox"/> 規則第4条第3号該当事業者		
	<input type="checkbox"/> 規則第4条第4号該当事業者		
	<input type="checkbox"/> 上記以外の事業者（任意提出事業者）		
主たる事業 の種類	大分類	○	教育、学習支援業
	中分類	81	学校教育
主たる事業 の内容	大学		
事業者の規模	<input checked="" type="checkbox"/> 原油換算エネルギー使用量	4,402	k l
	<input type="checkbox"/> 自動車の台数		台
	<input type="checkbox"/> エネルギー起源の二酸化炭素 以外の温室効果ガスの排出の量		t-CO ₂

(第2面)

計画期間及び報告年度	平成28年度 ～ 平成30年度（報告年度 平成30年度分）
温室効果ガスの排出の量の削減目標の達成状況及び温室効果ガスの排出の量	別添 指針様式第2号のとおり
温室効果ガスの排出の量の削減目標を達成するための措置の実施状況	別添 指針様式第2号のとおり
他の者の温室効果ガスの排出の抑制等に寄与する措置の実施状況	別添 指針様式第2号のとおり
その他地球温暖化対策の推進への貢献に係る事項	別添 指針様式第2号のとおり
備 考	

- 備考 1 欄内にすべてを記載できない場合は、別紙により提出してください。
2 □のある欄は、該当する□内にレ印を記載してください。
3 報告書には、事業活動地球温暖化対策指針に定める資料を添付してください。
4 ※印の欄は記入しないでください。
5 氏名（法人にあっては、その代表者）を記載し、押印することに代えて、本人（法人にあっては、その代表者）が署名することができます。

事業活動地球温暖化対策結果報告

1 温室効果ガスの排出の量の削減目標の達成状況（第1号、第2号、第4号該当者等）

(1) 温室効果ガスの排出の量の状況（排出係数固定）

ア 計画期間の温室効果ガスの排出の量

	基準年度	第1年度	第2年度	第3年度	目標排出量
排出量	(実) 8,459 t-CO ₂	(実) 8,585 t-CO ₂	(実) 8,810 t-CO ₂	(実) 8,737 t-CO ₂	(実) 8,205 t-CO ₂
	(調) 8,327	(調) 8,452	(調) 8,675	(調) 8,604	(調) 8,077
削減率		(実) -1.5 %	(実) -4.1 %	(実) -3.3 %	(実) 3.0 %
		(調) -1.5	(調) -4.2	(調) -3.3	(調) 3.0

イ 計画期間の温室効果ガスの排出の量に係る原単位等の値

原単位の活動量	延床面積		単位	t-CO ₂ /千m ²	
	基準年度	第1年度	第2年度	第3年度	目標年度の値
排出量原単位等の値	60.85	61.89	61.52	60.01	59.02
削減率		-1.7 %	-1.1 %	1.4 %	3.0 %

ウ 計画期間の温室効果ガスの排出の量の状況についての説明

第1年度	<ul style="list-style-type: none"> 平成28年度は基準年度と比較して、電気使用量は同程度だったが都市ガス使用量が増えたことにより二酸化炭素排出量が増加した。 都市ガス使用量が増えた原因は、生田総合体育館の施設利用が増えたことにより、温水プールの熱源であるボイラーの都市ガス使用量が増加したためである。
第2年度	<ul style="list-style-type: none"> 平成29年度は生田校舎の生田2号館、生田新3号館が完工し運用を開始したことにより、エネルギー使用量が増加した。 生田2号館、生田新3号館の設備は省エネ性能の高い機器を採用したことにより、平成28年度と比較して二酸化炭素排出量原単位は改善した。
第3年度	<ul style="list-style-type: none"> 計画期間内に設備更新を実施したが、施設利用の増加、生田2・3号館が完成し運用を開始したことにより、基準年度と比較して二酸化炭素排出量が約3.3%増加した。 排出量原単位は計画初年度に上昇したが、2年目以降は計画書で予定した省エネ対策が順調に進んだことにより、目標は達成できなかったが改善は進んだ。

(2) 温室効果ガスの排出の量の状況（全社目標）

--

3 温室効果ガスの排出の量の削減目標の達成するための措置の実施状況

(1) 温室効果ガスの排出の量の削減のための措置の実施状況

事業所等 (第1号、第2号、第4号該当者等)	計 画	<ul style="list-style-type: none"> ○エネルギー使用量の管理 ○空気調和設備の管理 ○空気調和設備の更新 ○照明設備の更新
	第1年度	<ul style="list-style-type: none"> ○照明設備の更新 ・総合体育館1階2階高天井の照明器具をLED照明器具に更新 78台
	第2年度	<ul style="list-style-type: none"> ○照明設備の更新 ・9号館1階入学センターインフォメーションの照明器具をLED照明器具に更新 44台
	第3年度	<ul style="list-style-type: none"> ○空気調和設備の更新 ・8号館1・2階の空調機を高効率空調機に更新 ・教室用パッケージエアコン8台、共用部外気処理エアコン4台 ○エネルギー使用量の管理 ・BEMSを使用して各建物の最大電力、電力使用量、ガス使用量の管理をした。
自動車等 (第3号該当者等)	計 画	
	第1年度	
	第2年度	
	第3年度	

4 他の者の温室効果ガスの排出の抑制等に寄与する措置の実施状況

計 画	なし
第1年度	なし
第2年度	なし
第3年度	なし

5 その他地球温暖化対策の推進への貢献の実施状況

計 画	・廃棄物の分別収集による再資源化の取組み及び廃棄物の排出量の抑制、再利用の取組みを図る。
第1年度	・紙使用の抑制、裏紙利用による廃棄物低減
第2年度	・紙使用の抑制、裏紙利用による廃棄物低減
第3年度	・紙使用の抑制、裏紙利用による廃棄物低減

6 前年度の温室効果ガスの排出の量等の実績（排出係数反映）

(1) 事業者単位

ア 第1号、第2号、第4号該当者等

(実)	8,297	t-CO ₂
(調)	8,108	

イ 第3号該当者等

(実)		t-CO ₂
(調)		

(2) 事業所等单位（第1号、第2号該当者等）

ア 年間の原油換算エネルギー使用量が1,500kl以上の事業所の一覧

事業所の名称	事業所の所在地	日本標準産業分類 細分類番号	事業所に係る 事業の名称	温室効果ガス の排出の量
専修大学生田校舎	川崎市多摩区東三田2-1-1	8161	大学	7,986 t-CO ₂
				t-CO ₂
				t-CO ₂
				t-CO ₂

イ 年間の原油換算エネルギー使用量が原油換算で500kl以上1,500kl未満の事業所の一覧

事業所の名称	事業所の所在地	日本標準産業分類 細分類番号	事業所に係る 事業の名称	温室効果ガス の排出の量
				t-CO ₂
				t-CO ₂
				t-CO ₂
				t-CO ₂

ウ 年間の原油換算エネルギー使用量が原油換算で500kl未満の事業所の一覧

エネルギー使用量の規模	事業所数
400～500kl 未満	
300～400kl 未満	
200～300kl 未満	
100～200kl 未満	1
100kl 未満	2

(3) 事業所等单位（第4号該当者等）

ア 物質ごとの年間の温室効果ガスの排出の量（二酸化炭素換算）が3,000t以上（二酸化炭素の場合はエネルギー使用に伴い排出したものを除く。）の事業所の一覧

事業所の名称	事業所の所在地	日本標準産業分類 細分類番号	事業所に係る 事業の名称	温室効果ガス の排出の量
				t-CO ₂
				t-CO ₂
				t-CO ₂
				t-CO ₂

イ 物質ごとの年間の温室効果ガスの排出の量（二酸化炭素換算）が3,000t未満（二酸化炭素の場合はエネルギー使用に伴い排出したものを除く。）の事業所の数

事業所数	
------	--